

令和3年度

里山ほのか学園の自己評価、評価表分析結果

認定こども園は、社会福祉事業の主たる担い手にふさわしい事業を行うため、当園の教育保育過程を踏まえ、指導計画や食育計画等に基づく保育実践の振り返りをするとともに、保育内容等の自己評価を行っております。

当園では、保育教諭は自己評価チェックリストを元に評価し、振り返りを行うことで課題を見つけ、改善のために自己研鑽し、保育の質の向上に向けて努めていきます。また、保護者の方との関わりを大切にし、教育保育内容の充実を図り、地域に根差した開かれた子ども園を目指します。

カテゴリー名	チェック項目
1 保育の計画性	<p>園の教育保育理念や教育方針については、概ね理解でき共感しながら教育保育に携わっていると分析結果で表れている。</p> <p>教育・保育要領の理解では、乳幼児の姿を見とりながら、保育理念に基づき発達年齢に応じた計画をたて、毎年振り返りながら計画をし直す必要がある。子どもたちが、心動かされるような豊かな経験の中で、気づき、試し、感動する主体性のある遊びを通して、深い学びのある生活が送れるように計画をしていきたい。</p>
II 保育の在り方・幼児への対応	<p>経験の差があるため、朝礼、昼礼や園内研修を通して園長・主幹保育教諭が助言し、相談にあたっている。</p> <p>各年齢の遊びを書き出し、子どもの学びや保育者の専門性を園内研修で話し合い、連続性のある保育につなげる手立てとなっている。</p> <p>iPad で撮影した保育の様子を見ながら、関わり方や環境構成の仕方を話し合い、保育教諭同士の学びの場を増やし、子どもたちの育ち合っている姿を見とる力を身に付けていきたい。</p>
III 保育の在り方、園児への対応	<p>概ねできているが、非常勤職員や派遣職員は、経験値が浅く、内・外部研修の参加が難しいため、子どもたちの活動に対する見とりや環境の再設定などの内部研修を深められるように計画していきたい。</p>

カテゴリー名	チェック項目
IV保護者への対応	<p>毎月、園だより・クラスだより・保健だより・給食だより・英語だより等で、園の方針、思い、クラスの活動内容を発信できている。</p> <p>コロナ禍で、クラスでの懇談ができない中ではあったが、感染状況を見ながら、就学児クラスと2歳児の参観、懇談会を時間短縮で密にならないように分散し行えた。</p> <p>個人懇談は感染予防をし、行うことができた。</p> <p>毎年、保護者支援・子育て支援のキャリアアップ研修に参加し、保護者からの訴えや、意見について謙虚に話を傾聴できるよう職員育成に力を入れている。</p>
V地域の自然や社会との関わり	<p>新型コロナウイルス感染拡大の為、行事の中止、縮小が続いた。地域交流も出来ないが、公園の清掃をして下さっている地域住民の方と挨拶を交わす、就学児が園外保育でバス、施設を利用した際は、公共施設を利用することで社会性が身に付くような経験ができた。</p> <p>小学校との連携は、吉野地区の幼・保・こども園の年2回の交流会の中止、小学校見学や給食試食会が中止となったが、小学校1年生より歓迎のビデオレターやプレゼントをいただき、小学校への期待や喜びにつなげることができたように感じる。</p> <p>園開放や子育て支援は新型コロナウイルス感染拡大防止という観点から中止とした。</p>
VI研修と研究	<p>園内研修では、子どもたちの遊びの事例を各年齢でとり、子どもたちの学びや保育者の専門性について話し合い、助言を活かして環境の再構成に取り組むことを目標にし、保育計画を行った。自然を取り入れた保育が多く、季節を感じながら子どもたちが遊びの中で学びを生み出している姿が見受けられた。その一方で、動植物の飼育栽培に興味関心が見いだせず、生き物を育てる中で感じる愛おしい気持ちなどが乏しく感じる。保育教諭自体の経験のなさや、思いを育成できるような研修や研究を取り入れたい。</p> <p>外部研修では、今日的に課題である、アレルギー疾患・特別支援教育・危機管理マネジメントの研修に参加し、保育教諭のスキルアップにつながった。</p> <p>非常勤保育教諭もキャリアアップ研修ができるように計画をし、全職員の資質向上に努めていきたい。</p>